

学習プログラム開発をしよう

(G) グループ メンバー (今宿・砂木・高橋・森川・狛野)

テーマ

青少年教育

個人の要望

- 料理 楽器 海外活動 フットボール
- ボウリング (日英対話)
- テレビゲーム エンタメ番組 小説
- インターネット 科学実験 物産展
- 山登り 自然観察 国際交流
- 音の遊び体験 親子での学びの必要性

社会の要請

- 奨励金の家庭が少く教育費の負担が大きい
- 指導者の不足 ボウリングの育成
- 地域社会の希薄化
- 環境が整っていないので活動が難しい
- ↓
- 地域全体で育てたい
- 道徳と志願の取り組み

地域課題

- インターネットの広がりにより新しい方法で交流できるので交流がしやすい。
- 地域社会の希薄化により、子どもが育つ場所が地域に少ない。
- (参考)
 - 地域社会の希薄化により、子どもが育つ場所が少ない → 施設や自然を活用
 - 世代間の交流とあつたコミュニティづくり
 - 豊かな自然とあつた資源と志願と特色のある取組
 - 大学生や留学生の協力を得て国際化、異文化の取組

学習目的

- 地域交流を図り、住みやすい町にするとともに、地域の良さを知り、次世代を担う子どもの育成を図る。
- (参考)
 - 地域で子どもを育てる
 - 奨励金の家庭に支援を行う
 - 道徳と志願の取り組み

学習目標

- 子ども達が地域での体験活動とおして、地域交流の楽しさを体験すると同時に自分の地域の良さを発見する。
- 子ども達が地域での活動とおして、コミュニティの大切さを知り、意見交換、地域交流と繋がるきっかけを作る。

【学習プログラムを開発しよう!】

(G) グループ メンバー (今福・砂木・高橋・森川・柳野)

1 学習目的

・地域交流を図り、住みやすい町にするとともに、地域の良さを知り、次世代を担う子どもの育成を図る。

2 学習目標

・子ども達が地域での体験活動を通して、地域交流の楽しさを実感すると同時に自分の地域の良さを発見する。
・子ども達が地域での活動を通して、コミュニケーション能力を高め、意見交換、地域交流を築くことができる。

3 プログラム名

ホテルこい① みんなもこい①
～ふゆさとでホテルを観光しよう～

4 対象・定員

・対象 小学生～6年生
・定員 20名 (申し込み数の場合は抽選)

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

1人 500円 (3日分) ... 消耗品(タオル・紙巾・歯のわら) 新聞謝金(旅行代金 2,000円) 会場代 (ゴミ袋) (袋・米)
※ホテルこい1区 水曜のわら 50～60円

6 事前に必要な知識や準備物

<p>知識 わらは作成前 30分～1時間水にひたししめらせておく ホテル観覧は静かに行う ホテルの一生を知る</p>	<p>準備物 アレルギー 主催者側：救急箱、チラシ、ホテルの成長のしおり、アンケート、ゴミ袋 参加者：汚れていい服装(長袖長ズボン) 帽子、替えの履、火ばさみ、虫よけ(チラシに記載)、かい中電灯、帽子、水筒</p>
--	---

7 留意点

<p>不要なお金や一人は持ち来ない 参加者は基本3回連続参加 緊急連絡先の確認 ホテル観覧は夜なので保護者同伴</p>	<p>持ち来たゴミは各自持ち帰る 夜間、休日、緊急病院を確認しておく ホテル観覧会の駐車場の確保 参加者20名は3・4・5・6年生の縦割(アレルギー5名、アレルギー) (主催者側が事前に決めておく)</p>
---	---

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所
第1回 6/15(土) 9:00~ 12:00	(伝統文化・食育) “ホタルかごづくり”	・子どもたちが伝統的なホタルかごづくりを体験することにより、地域交流の楽しさを実感できるようにする。 ① オリエンテーション (30分) ・箱舟の仕組みの説明 ・自己紹介を行う ② かごづくり (90分) ③ 支あけごっこ (30分) ④ オリエンテーション (30分) ・食育とは何か 交流会 (和食の試食)	・パレットセンター職員 ・地域のこどもたちと お祭り ・お話しできるお話し ・パレットセンター職員	・パレットセンター 小ホール 調理室
第2回 6/29(土) 19:30~ 21:00 予備日6/29 (雨天の場合)	(生物・科学) “ホタル観察会”	・子どもたちが自然とふれあい、学ぶ機会があることにより、親子のコミュニケーションや地域との交流を深め、豊かな心をはぐくむことができる。 ① オリエンテーション (15分) ・箱舟の仕組みと観察会 ② 箱舟の仕組みと観察会 (60分) ③ オリエンテーション (15分) ・お話しのお話し	・パレットセンター職員 ・大学専門員 (3名) ・大学生ボランティア (8名) ・パレットセンター職員	・パレット川同地
第3回 7/13(土) 9:00~ 11:00 予備日7/13 (雨天の場合)	(環境保全) “ホタル舞う川 クマニ作戦”	・子どもたちがホタルの生態について学ぶことにより、乱舞する自然の美しさを体感し、ホタルが生息する環境保全の意識・意欲を高めることができる。 ① オリエンテーション ・清掃について 環境事項 (15分) ② 川の清掃 (45分) ③ 一言感想発表会 (50分) ④ 次年度の約 (10分)	・パレットセンター職員 ・地域の人 大学生ボランティア (4人) ・パレットセンター職員	・パレット川同地 ・パレットセンター 研修室

9 評価方法

- ・ 指示板により張り出し、地域に発信する。
- ・ インター (第1回・第2回)
(参加者から地域の方の意見・子ども)

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(G) グループ メンバー (今宿・砂木・高橋・森川・柳野)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

・ ホテルかごづくり

○学習目標

・ 子どもたちが伝統あるホテルかごづくりを体験することにより、地域交流の楽しさを実感できるようにする。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 1 回 6 月 15 日 (土) 9 時 00 分 ~ 12 時 00 分

○場所

・ パレットセンター ・ ホール ・ 調理室

3 講師、指導者、支援者

・ 指導者… 地域のかごづくり名人、助手、お年寄り
 ・ 支援者… 女性会 ごはんの炊き出し

4 準備物

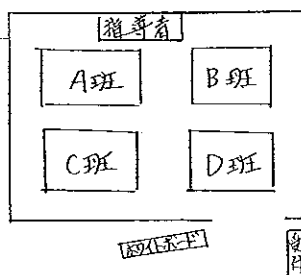
○参加者

・ 参加費 (500 円 - 3 日分 材料代)
 ・ お茶

○主催者

・ 名簿 ・ 名札 ・ ホテルかごづくり説明書 ・ ケラシ ・ マット ・ 筆記用具 ・ 調理用具 ・ 文具用品
 ・ 机シート ・ 救急箱 ・ お水 (麦・米・塩) ・ 万全・和紙・麦のわら ・ 丁渡

5 会場図



※各グループに指導者が1人

6 実施計画

時刻	内容	留意点
8:30	受付 (パレットセンターホール前) ・受付を済ませ班ごとにならんでもらう	・フルシート、筆記用具、カムテフ、はさみ 和紙、たこ糸、ものさし、のり、案内板、長机(1) 受付名簿、名札 (参加者、ボランティア、職員) ・受付 職員 (1名) ・ホール内の誘導 ボランティア (4名) ・入口にホワイトボードを置く (班編成を記載しておく) ・汚れてはいないようにホールにフルシートを敷いておく ・各班ごとにわけてはさみ、和紙、たこ糸、ものさしを用意する。
9:00	オリエンテーション ・講座のねらいや日程について説明する ・アイスブレイクを行い、和やかな雰囲気を作る (強制は無し) ・グループ内で自己紹介を行う。	・司会・説明 職員 (1名)
9:30	ほたるかごづくり ・指導者が、全体に対してかごづくりのながれを説明する ・各班ごとに指導者、助手に手伝ってもらう なかりかごを作成していく	地元かごづくり名人、助手 (地域の若年層) ・かごづくり終了 (11:00) にあわせて女性会 かご交ごはんを作り始める ・適宜、水分補給などの休憩を入れる 長机 (4) カムテフ、マジック ・ホール内に長机を用意しほたるかごを置く 長机にはあらかじめカムテフを貼っておく そのカムテフに名前を書いてもらう ほたるかごを置く。 ほたるかごはみんなに披露する ほたるかごはあずかる 講座3回目に戻す ほたるかごが時間内にできるように指導者が 手伝う。
10:50	かたづけ (ほたるかご)	・ラップ、消毒液、ご飯、おつもの 女性会
11:00	炊きあがった麦ご飯を各自おにぎりに していく	・手洗いをしっかりとさせる (消毒液) ・1人 3~4個作る (自分用と地域の方用) ・ご飯をラップにフツンでおにぎりを作る
11:20	おにぎりを食べるなかり子どもたち、地域の 人たちと交流	
11:45	アンケート記入 かたづけ (食べたもの) 次回講座のお知らせ	・司会・説明 職員 (1名)
12:00	終了	・出口へアンケート、名札、回収箱を用意 ・受付 ボランティア (2名)